

人類史の一部としてのキャリア

大学生協連会長理事 庄司興吉

この世にヒトという動物が現れてから、どのくらいの数が生まれ、死んでいったのだろうか。進化のどの段階から数えるかにもよるが、天文学的数字になるようにも思える。けれどもウィキペディアによると、現在の世界人口はほぼ 68 億人で、過去 6000 年間に存在したすべてのヒトの 5 分の 1 ほどであるそうであるから、そう大した数でもないようだ。人口爆発とも呼ばれるような急増が始まったのは第二次世界大戦後、20 世紀の後半以降である。

いずれにしろ、私たちは皆、ヒトの集合としての人類の一員だ。人類はこの数千年のあいだ、まず農耕あるいは農業を基礎にして文明を創り、わずか 250 年ほど前からその基礎を工業あるいは産業に変えて、急速に数を増やすとともに地球上をほとんどくまなく踏破してきた。私たちは、たがいに争いあい、殺し合いもくり返しながらとはいえ、長い歴史をつうじてつくりあげられてきた、地球的規模の人類ネットワークの一員だ。

キャリアとは、私たちの一人ひとりが、このネットワークに自覚的に入り直すことではないかと思う。若い先短い私は、これまでに何をしてきたのかを反省し、これからの何ができるかを考える。私は社会学者として生きることを選び、いろいろなことを試みたあげく、これからのヒトは地球市民として生きねばならないと思うようになり、そのために役立つような社会学を考えるようになった。その延長上で、なお貢献できることがあるのではないかと考えている。

学生諸君、とくにこれから就活に入る学生諸君には、目前の困難に悲観的にならず、ぜひ大きな眼でこれからのことを考えて欲しい。日本もアメリカも中国もその他の国も変革を続けるのはたやすくはないが、人類史の潮目は明らかに市民主権強化の方向に変わりつつあるからである。大学生協は市民の時代を支える協同組合の一つとして、学生諸君のキャリア形成を強力に支援していきたいと思っている。

(Campus Life 22 巻頭言-100215)